

2023年、日本のEPA交渉の予測の採点と2024年の予想

2021年末に次のコラムを掲載した。予測の採点を更新してみたい。。

2022年、日本のEPA交渉はどうか？

思えば、2021年の年明けには世界のだれもが、新型コロナは中国の一部での病気としか思っていなかった。

それから2年。それでもEPAは着実の動き、日英EPAの締結発効、RCEPの署名と発効の確定と進んだ。

2022年はどうなるのか？予測してみる。

まずCPTPPである。いまだ批准していないチリ、マレーシア、ブルネイの動向である。

チリについては、2019年中に議会の承認がされる見込みであったが、土壇場で無期延期状態になっている。

2022年3月の大統領選挙で左派の候補が当選した場合、公約に新たなFTAはしないとしていることからこのまま加盟しないという予測もされている。

もっともペルーが、左派の大統領の就任直前に批准したようにかえって、左派の当選の場合に直前に批准もありかと思うがどうであろうか？

(結果)

結局、チリの大統領就任直前の批准はなかったが、10月にチリの議会を通過。投資家と国との間の紛争解決（ISDS）メカニズムについてのチリが推進するサイドレターへの他の参加国の承認が得られた後に批准することであったが2022年12月23日に批准され、2023年2月21日に発効する。

マレーシアは、2021年中にRCEPを批准しそうで併せてCPTPPも批准しそうである。

その場合ブルイネも追随しそうである。

(結果)

マレーシアは、2021年中にCPTPPを批准したが、ブルイネは動きがない。国内的に問題の要素はなさそうであるが、何故か動かない。

新規加盟についてはイギリスの加盟交渉は2022年中にまとまりそうであるが、申請の扱いがまだ処理されていない中国と台湾はどうか？加盟申請が何回も先延ばしになっているタイと韓国はどうするか？いずれにせよ、日本のCPTPP議長国は2021年末で終わり、2022年はシンガポールとなる。新規加盟の扱いについて日本が主導権をとる期間は終了する。市場開放水準の切り下げを認めず、加入後の協定順守を求めるのは当然であるが、交渉開始時の条件とはできないであろう。

そうなると2022年の第1回CPTPP委員会で交渉開始が承認となるのがもっともありそうである。その場合、加入WPは、形式的には国別になるとしても実質的に合同で開催し、個別の条件交渉にならないようにできれば日本としては好ましいだろう。

(結果)

イギリスの加盟交渉は2022年中にまとまらなかった。個別品目の関税交渉の難航のようである。

新規加盟は、更にエクアドル、コスタリカ、ウルグアイが申請したが、中国、台湾を含めその扱いについては進展がない。また申請直前までの動きがあった韓国は、政権交代後動きが止まっている。またタイも動きがない。

(2023年の結果)

ブルイネが加盟し、11か国全部がそろった。イギリスの加盟も正式承認されたが、他の加盟申請国は、依然としてたなざらし。

交渉中のEPAは、どうなるか？

日中韓FTAは、2021年11月に交渉会合を開催して以来、動きがないが「RCEP交渉の進展の現状を確認し、いかなる付加価値を付与することができるかを議論」と日本の外務省は説明しており水面下で交渉が進展しRCEP発効後妥結発表という可能性もある。

同じく2021年10月から進展のない日トルコEPAは、動向が不明である。

公式に交渉中断となっているGCCとのFTAであるが、最近GCCがEU、イギリスとの交渉を再開してる。

日本も交渉再開してしかるべきかと思うが情報は乏しい。

こうみると2022年に確実に行われるの、CPTPP拡大交渉のうちイギリスとの交渉のみであり、ほぼ確実なものは、CPTPP拡大交渉のうち中国、台湾との交渉、かなり可能性があるのはCPTPP拡大交渉のうち韓国、タイとの交渉であり、交渉中のもので何らかの進展の可能性のあるのは日中韓FTAとなりそうである。

(結果)

結果として2022年中の妥結は何もなく予測はすべてはずれということになる。一方で、日本・イスラエル、日本・バングラデッシュが共同研究開始になるのは予想外の進展であった。

(2023年の結果)

2023年は、新しくするまでもなく、2022年の継続の予想はあたり。香港のRCEP加入は動きがなく、日GCCの交渉再開くらい。

さて2023年暮れにこれを採点して何点になるか？

(結果)

自己採点は、60点。ぎりぎり可。甘いかな。

2024 年は、日本・バングラデッシュは交渉開始となるが、日本・イスラエルは政治的に微妙。CPTPP へのイギリス加盟は発効するが、他はまたたなざらし。